

○ 「地域と連携した遊休農地の解消」

(奈良県奈良市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 本市は、奈良県の北部に位置し、春日大社より西が平坦地域、東が山間地域となっている。
- 経営耕地面積は、2,149haであるが、規模別では、1.0ha以下の農家数が76%を占めており小規模農家が多いのが特徴である。
- 市の半分以上が山であり、近年、鹿や猪また猿の獣害被害が深刻化しており、人口減少もあり山林・原野化している農地が増えている。小規模な経営耕地面積の農家が多くを占め、兼業農家の比率も高く、農業の担い手の高齢化・後継者不足により、農地の遊休化が増えている。

奈良市



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 遊休農地解消活動モデルほ場を古市地域で選定。地元農業委員・推進委員が調査を行い、土地所有者と交渉。委員自らが、草刈・耕起・作付け・収穫を行った。ほ場に、モデル活動を行っている旨の看板を建て、玉ねぎを植えた。今回は、近所の福祉施設を招待し、収穫を一緒に行った。
- 委員自ら各宅をまわり、農業アンケートを実施し市に意見書を提出。
- 農業委員・推進委員による地域計画の目標地図作成の準備を行う。

3 活動(取組と工夫)の結果

- 当該遊休ほ場は所有者に返し、7月以降に新しい委員により、新たな遊休農地を借り受けて、作付けを行う事になった。